

岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University
Faculty of Regional Studies

FOREST



contents

■	学部長からのメッセージ	1
学 部	学部案内	2
	学科・コース紹介	3
	カリキュラムの概要	4
	授業科目一覧	5
	社会活動演習	6
	地域学実習	7
	専門セミナー	8
研 究 科	研究科案内	10
	専攻紹介	11
	カリキュラムの概要と授業科目一覧	12
■	進学・就職	13
■	地域科学部の活動と成果	16

地
域
科
学
部

～学部長からのメッセージ～

地域科学部だからこそ、学んでいけること

岐阜大学の「地域科学部」は1996年秋に日本で最初に「地域」という名をつけてできた学部です。はじめのころは「何をやっている学部?」と尋ねられましたが、最近の人口減少や少子高齢化の中での「地方創生」の取り組みもあって、同じような地域学系の仲間の学部が全国に増えてきました。

「地域」といっても、地元のことだけではありません。また、地元出身だからといって、地域のこと詳しいわけでも、また、実際のまちづくりの取り組みまで、十分に知っているわけではないと思います。日本の中でも、北海道から沖縄まで、自然や歴史、言葉や生活、産業、政治などで多様な地域性や格差があります。2016年度から新たに国際教養コースがスタートしましたが、海外への留学や旅行を通じて、世界各地が多様性に満ちたものであることを経験するチャンスがあると思います。その時には、日本や岐阜のことをプライドをもって語れるようになって欲しいと思っています。

「地域」の問題について学び、理解するためには、1つのジャンルだけに捕らわれていてはいけません。自然、経済、政治・法律、歴史、コミュニティ、文化や思想に到るまで、幅広い分野にわたって「ワクワク」して知的な好奇心を広げておくことが大切です。そこで学部紹介パンフレット「FOREST」では、1年前学期の「地域研究入門」をはじめ、それ以降、多様なテーマに向かって、さまざまなアプローチが可能で、それぞれの違いとともに、共通する課題を見つけられることを紹介していきます。

地域科学部には、「国際教養」の他に「産業・まちづくり」「自治政策」「環境政策」「人間・文化」「生活・社会」という、あわせて6つのコースがあります。自由に、そして自主的に、選び取っていくコースやテーマをめぐって、専門的なさまざまな講義を受けていきます。

少人数教育の特色を活かし、1年前期の初年次セミナー、後期と2年前期の基礎セミナーで基礎的な学習をした上で、2年後期からの専門セミナーの所属に向かって志望を固めていきます。基礎や専門のセミナーでは論文や著作を読み、実習・実験などでフィールドワークや分析を行います。さらに、再び理論に立ち返ってクリティカルに考え抜いた上で、創造的な思考力や行動力を身に付けていくことが大切です。この学部では学生と教員の距離が近いので、教員は親身になって相手をしてくれます。そして最後には4年間の学習の目標である、卒業論文の作成が待っています。

併せて、1年前学期の社会活動演習での体験学習や、専門的な講義やセミナーをふまえながら、3年次前学期の地域学実習など、フィールドワークを重ねて、調査やレポートづくり、提案、さらには実践的な取り組みなどを経験していくことができます。

これから4年後、就職して社会に出てからのことも想像してみましょう。地元の企業からは、仕事を理解し、しっかりコミュニケーションをとり、企画や行動のできる人が求められています。どの分野を学んだかに関わらず、どのような仕事についても、「しっかり考えることのできる」思考力が身につけば大丈夫です。公務員になる人もいますが、条例や財政だけでなく、市民と一緒に（協働）、地域の自然や文化、産業の資源を活かしていくことが地域づくりでは必要なのであり、地域科学部こそ、その課題に応えられるような学び方ができる学部なのです。



岐阜大学地域科学部長
岐阜大学地域科学研究科長

富樫 幸一



地域科学部

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して専門的に学ぶことができるように、6つのコース（産業・まちづくりコース、自治政策コース、環境政策コース、生活・社会コース、人間・文化コース、国際教養コース）を設けています。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

学科・コース紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすくして平和で文化的な地域社会を創り出すことができる人材の育成を目的とした、国立大学ではユニークな学部です。2学科6コース制をとり、学ぶ範囲は広くかつ多様です。軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



地域科学部

地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する的確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

地域政策学科・地域文化学科

産業・まちづくりコース

地域経済の理解のためには、地域の産業や経済状況を把握しなければなりません。同時に日本や世界の経済動向や、経済システムを理解することも必要になります。本コースでは、地域から世界までを見すえた視点で、産業構造や経済システムの理解を深め、時にはフィールドワークを行い、政策立案の基礎となる専門的な能力を獲得する教育内容を構成しています。

自治政策コース

分権時代の地域の政策課題は多様化しており、1つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本コースでは、行政学、財政学、法律学など、問題解決の基礎となる専門分野をバランスよく配置して、住民参加のあり方やNPOとの協働など、地域の新しい課題解決のための方策について学び、色々な課題に積極的に取り組む人を育成する教育内容を構成しています。

環境政策コース

本コースでは、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基礎的な学力を身につけ、自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

生活・社会コース

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本コースでは、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

人間・文化コース

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本コースは、この視点にもとづいて、グローバル化の時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

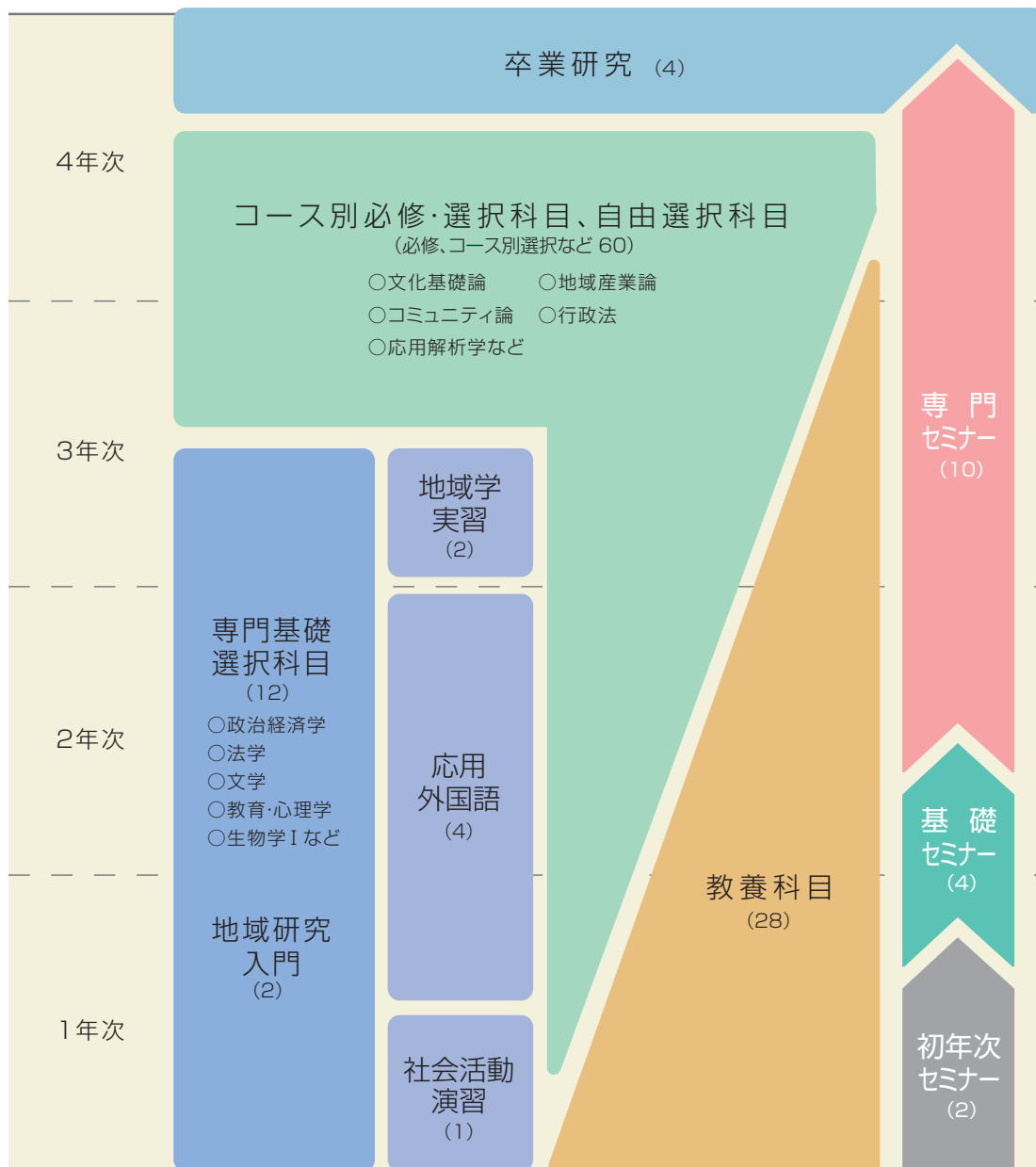
国際教養コース

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティならびに異文化に対する深い理解を養わなくてはなりません。本コースでは、一年間の海外留学プログラムなどを通じて、地域と国際社会の双方で活躍できる人を育成する教育内容を構成しています。

カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができ一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実に即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだらう？



()は卒業に必要な修得単位数

授業科目一覽

コース		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化	国際教養
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養) 地域研究入門 社会活動演習 応用外国語 基礎セミナー 英語(教養) 第二外国語(教養)					
	選択	現代経済学 政治経済学 地理学	法学 憲法 現代政治学	微分積分Ⅰ・Ⅱ 線形代数Ⅰ・Ⅱ 物理学Ⅰ 化学Ⅰ 生物学Ⅰ 記述統計学 推測統計学	教育・心理学 現代社会学 近・現代史	哲学 文学 言語学	グローバルゼーション概論 哲学 憲法 物理学Ⅰ
専門科目	コース別必修	計量経済学 経済地理学 日本経済論 地域経済論 経営学 社会政策論 地域づくり論	行政法 財政学 地域計画論 国土開発論 民法 社会政策論 社会哲学	都市環境工学 環境物理学Ⅰ 化学実験 物理学Ⅱ 生物学Ⅱ	地域社会学 社会調査法Ⅰ 社会調査法Ⅱ 地域史 社会福祉原論 メディア論 文化人類学	文化基礎論 社会哲学 言語文化論 社会言語学 日本文化論 アジア文化論 ヨーロッパ文化論	言語と社会入門 アメリカ文化論 化学実験 社会調査法Ⅰ 社会政策論 日本文化論 近・現代思想論 文化人類学 言語意味論 現代日本の社会(外国人留学生) 近代化と日本人(外国人留学生) 日本の表象文化(外国人留学生) 岐阜の地域文化(外国人留学生)
	コース別選択	地域産業論 協同組合論 消費経済論 会計学 マーケティング論 金融論 国際経済論 比較経済体制論 労働経済学 労働社会学 公共経済学 環境経済学 経済政策 地域自治論 地方財政論 地域計画論 交通計画論 地域解析学 地域振興論 農村振興論 社会資本論 国土開発論 財政学	企業法 刑法 裁判法 環境法 労働法 行政学 地方自治法 政治過程論 国際関係論 地方財政論 地域自治論 交通計画論 社会資本論 地域振興論 労働経済学 公共経済学 環境経済学 地域産業論 農村振興論 地域社会学 社会福祉原論 社会保障論 環境社会学 地域づくり論	応用解析学 数理計画法 微分方程式 物理学Ⅲ 環境物理学Ⅱ 物理化学 化学演習 植物生態学 動物生態学 環境保全論Ⅰ 環境保全論Ⅱ 環境物理学Ⅲ 居住環境と心理 環境調査法 システム工学	人間発達論 生命倫理学 社会政策論 社会保障論 地域福祉論 生活福祉論 社会福祉援助技術総論 老人福祉論 児童福祉論 健康教育論 環境教育論 環境社会学 コミュニティ論 ジャーナリズム論 家族社会学 ジェンダー論 労働社会学 地域自治論 日本文化論 コミュニケーション論 文化思想史 文献学 博物館学 言語と社会入門 アメリカ文化論	近・現代思想論 文化思想史 科学思想論 環境思想論 文化人類学 地域文化論 社会文化論 文化受容論 文化解釈論 表象文化論 境界文化論 文学批評論 コミュニケーション論 言語意味論 言語理解論 言語生活論 文献学 博物館学 言語と社会入門 アメリカ文化論	日本経済論 地域産業論 国際経済論 比較経済体制論 地域計画論 民法 国際関係論 微分積分Ⅰ 線形代数Ⅰ 記述統計学 推測統計学 生物学Ⅰ 生物学Ⅱ 物理学Ⅱ 化学演習 居住環境と心理 環境調査法 社会調査法Ⅱ メディア論 コミュニティ論 ジェンダー論 社会哲学 言語文化論 社会言語学 アジア文化論 ヨーロッパ文化論 文化受容論 境界文化論 言語理解論
		地域学実習		専門セミナー		卒業研究	
その他の特色							海外留学プログラム(日本人学生) 日本文化研修コースプログラム(外国人留学生)

地域科学部

社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

2018年度実施プログラム(指導担当教員)

- A: 裁判所・刑務所見学及びその成果発表(三谷 晋)
- B: 知的障がい者の授産施設: 第二いぶき(竹内 章郎)
- C: 市民ラジオ番組の制作 & 番組企画・出演(野原 仁)
- D: 障害のある若者たちと一緒に創る「青年学級=カレッジ愛」(土岐 邦彦)
- E: 大学生が地域の「子育て支援」に参加する!(近藤 眞庸)
- F: 子どもの自然体験教室のサポーター(稲生 勝)
- G: 岐阜市歴史博物館で作業する(加藤 公一)
- H: 名古屋証券取引所と IR エキスポ(三井 栄)



農業体験(販売)の様子



「子育て支援」イベントの様子

学生の声

2016年度入学 安藤 真由さん

社会活動演習では小さい子どもたちとのイベントを開催しました。初めは小さい子がどんなゲームや出し物を喜んでくれるのか全くわからなくて、他大学のイベントサークルに所属している友達に聞き込みをしました。準備段階では、子どもたちの目線となって危険ではないか、楽しんでもらえるかなど沢山意見を出し合いながら改善していきました。

当日、実際に子どもが来てみると自分が思ったようにはいかず、お父さんを引っ張って帰ろうとしてしまう子や、一言もしゃべってこない子がいる中、私は保育園に職場体験に行った経験を活かしながら、子供の目線に合わせられるようにしゃがんだり、たわいもない話をしていくにつれて子どもたちがだんだん心を開き始めてくれてとても嬉しくなりました。計画したゲームや出し物はどれも楽しんでくれていて、頑張って計画して良かったなと思いました。子どもが苦手と言っていた人も気づけば楽しそうに子どもたちと遊んだり、おしゃべりをしていて、私たちも子どもたちもみんなが楽しめる会を開くことができたと感じました。イベントを開催するというめったに経験できないことをやることができ、とても楽しかったです。



「子育て支援」イベントの様子

地域学実習

地域学実習は、3年生の前期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の9プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。

2018年度実施プログラム(指導担当教員)

- 地域社会の企業・行政組織・NPOの参与観察 ―インターンシップを通して(伊原 亮司/宇山 翠)
- 古くから原発のあるまちの住民と原発の繋がり方の特徴を調べる(高木 和美)
- もう一つの「居場所」としての「サード・プレイス」(富樫 幸一)
- 岐阜市中心市街地の活性化事業について(西村 貢)
- 人と人の繋がりからみた地域づくりの展望 ―「和良おこし協議会」構成員のパーソナル・ネットワークに関する調査―(林 琢也)
- 「景観マップ」の作成(合掌 顕)
- 障害者福祉事業と障害者雇用(小西 豊)
- 岐阜市内の森林の現状を知り、その利用について地域活性化の視点で考えてみる(肥後 睦輝)
- 人と動物との関わりからみる地域社会：揖斐川町・岐阜市におけるフィールド調査から(山口 未花子)



垂井宿のまちづくり調査のための打ち合わせ風景



白川郷での聴き取り調査の様子

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけではなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

学生の声

2014年度入学 伊藤 颯さん



地域学実習では私はインターンシップを通して労働調査を行いました。

産業、企業という言葉を知ると、最初に思い浮かべるのは一般に知られている大企業だと思います。ですが、大企業だけが私たちの生活を支えているわけではありません。近年では、大企業が積極的に海外に拠点を置き、現地の海外労働者を雇用するといったグローバル化がメジャーになりつつある中、他方で、地方創生やUターン就職などの言葉が注目を浴びていることから分かるように、地方産業の存在意義が高まっています。私はインターンシップという形で企業に直接関わることにより、地域企業の内側の一端を調査・分析しました。働く場の実態は、データや数字といった情報を把握するだけではなく、職場の空気を感じ取り働く者の生の声を聞いてはじめて理解できるものだと思います。また、職場文化の把握は、就職先を決める上でも不可欠です。地域学実習は、調査研究を学ぶという点だけでなく、自らの働き方を決めるという点でも有意義でした。

専門セミナー

2年次後期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。各教員それぞれの専門分野について、少人数で開講され、学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の卒業研究まで一貫して行われます。

各専門分野によって、運営形式は様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を通して、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多様多岐にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

富樫 幸一セミナー(経済地理学)

商店街や景観系のまちづくりを学んでいるセミナーです。2・3年生の時は、例えばJ.ジェイコブズの都市論や、「創造都市のための観光振興」といった本を輪読しています。3年生の地域学実習で最近、郡上八幡で元気な若手の人たちのコミュニティや、池田町の地方創生とまちづくり、岐阜市の金華地区に新しくできたカフェやギャラリーが伝統的な町家をどう活かしているか、などをテーマとしてフィールドワークをしています。4年生の卒論でも、商店街の中でリノベーションしてできたユニークな店舗や、都市や農山村に登場してきているゲストハウスなどを取り上げました。地域学系の全国の大学のインターユニ・フィールドワーク・プログラムでは、徳島県上勝町や函館市で合同調査をしてきました。また、観光まちづくり(DMO)で知られる「長良川おんぱく」にも、毎年、プログラムを企画して参加しています。



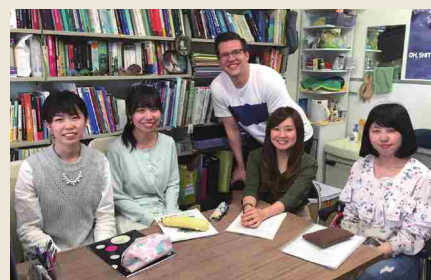
十二村 佳樹セミナー(都市環境工学)

本セミナーでは、(1)熱大気汚染問題である都市ヒートアイランド現象、(2)社会的背景を考慮した都市形態、という2つを主たるテーマとした研究活動を行っています。ヒートアイランド現象とは人工被覆・人工排熱の増加を主要因とする都市の温暖化のことです。これによる問題点として都市大気汚染や夏季エネルギー消費の増大、熱中症の増加等が挙げられ、その緩和が必要であると考えられています。また、少子高齢・人口減少を迎えた今、将来的にもエネルギー供給処理等の都市機能を効率的に維持管理したうえで享受し続けることが可能であり、かつ居住環境にも満足できる都市形態について検討することも必要であると考えられています。これらについて都市環境工学という見地から取り組み、熱的に安全で社会的要求にもこたえることが可能な都市空間の実現に資する知見を得ることを目標としています。



笠井 千勢セミナー(英語教育学)

私のゼミでは、第二言語習得論をテーマに調査を進めています。ほとんどの人が母国語の他に外国語を学習した経験があります。そして、上達した人、うまく学習が進まなかった人、その外国語を好きになった人、嫌いになった人など、異なる経験を持っていると思います。私のゼミを希望する学生は全員、第二言語学習において(何でこんなことになるんだろう?)という疑問を持っています。そして、自分自身が第二言語を学んだときに感じた不思議や、学習を妨げてしまった要因を追求していきます。また、留学経験者は二ヶ国語を習得したときに感じる違和感(?)について調査します。これは二言語を習得した時に起きる認知変化によるもので、言語が思考に影響を及ぼすためとされています。ゼミ生の中には、国際学会で研究結果を発表する学生もいます。英語で発表しますので、世界各国から集まる研究者に情報を伝えることができ、意見や助言をもらうことができます。



ジョン・G・ラッセルセミナー(文化人類学)

「グローバル化しつつある現代社会と多様性に溢れている21世紀の世界に我々はどう対応できる?」「自分とは異なると思われる人間—つまり「他者」—を理解するためにどうすればいい?」これらの質問に答えるにあたって、いわゆる「異文化」と「他者」という概念を再考察する必要があります。というのは、大体、日本では、「異文化」という言葉を聞く時、多くの人々が外国の状況を想像していますが、実際、「異文化」は外国の文化に限らず、日本を含め、各国が国内にも数多くの「異文化」と共存しています。また、その異文化には、世界中の国々は自国内に住む女性や男性その他のジェンダーの文化や、障がい者の文化も含まれています。本セミナーは、欧米と日本に於いてそれぞれの集団(人種、民族、ジェンダー、性的指向)とその文化が、学術機関や大衆文化、メディア、その他の社会制度を通してどのように伝えられ、表象され、理解されているかを考察し、我々が思う「異文化」と他者がどのように作り上げられているかを鋭い洞察力により再考する学生が育つことを目指しています。



学生の声

2016年度入学 竹本 雅さん

私は神谷ゼミで物理学を学んでいます。神谷ゼミを選んだ理由は、自然現象に興味があり、それを物理学の観点から解明したいと考えたからです。



毎回ゼミでは、主に先生や仲間たちとともに議論しながら、数学や物理学に関する知識を学んでいます。また、自分の関心のある話題を一つ決めて、それを先生や仲間たちに向けて発表する機会もあります。発表後の質疑応答では、様々な質問や意見が出てきます。他人の意見を取り入れることができ、その話題に対する新たな見方が得られ、とても有意義な活動になっています。

さらに、神谷ゼミでは、プログラミングの演習も行っています。この演習では主に、数学の問題を解くプログラムを書いています。解答のプロセスはわかっているにもかかわらず、実際にプログラムを書いてみると、うまく実行できない場合が多々あります。試行錯誤を重ねながら一つのプログラムを書くことは大変ですが、一つの問題をあきらめずに考え抜く力が非常に身につきます。

このように、ゼミは興味のあることをとことん追求でき、非常に充実した学習ができる場です。

学生の声

2016年度入学 森井 那奈美さん

私は、牧秀樹研究室で言語学を学んでいます。私たちが普段何気なく使っている日本語も、構成要素を丁寧に分析すると、見えないところ、つまり脳の中で驚くような動きをしています。私たちが「あたりまえ」だと見なしてきたことから、大発見することができるのです。現在、牧研究室の過半数は留学生です。英語や日本語はもちろん、中国語やモンゴル語、チベット語など様々な言語に日常的に触れ、研究することができます。研究室では常に多様な言語や意見が飛び交っており、議論が尽きません。



牧研究室では、統語論や生成文法に関する文献を大量に読みます。文献は英語で書かれたものばかりなので、より高度な専門知識を学べるだけでなく、英語の力もおのずと付いてきます。また、留学生が多いので、様々な国の言語や文化も学ぶことができます。毎日新しい発見があり、日本にいながらも、まるで現在留学しているかのような、新鮮な気持ちにさせてくれる研究室です。

地域科学研究科

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探究することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域科学
研究科

地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

カリキュラムの概要

- **特別演習 I・II・III・IV**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに4～14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	社会資本論特論 地域産業特論	行政法特論 地方財政論特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 心理学特論	
自由選択科目	理論経済学特論 計量経済学特論 比較経済体制論特論 経済地理学特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 行政学特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化学特論 環境計算法学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論 労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 社会人類学特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論	文化解釈論特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

学生の声

2016年度入学 松村 文菜さん



皆さんの周りにはどんな大学生がいるでしょうか？大学には高校から進学した人、研究のため調査や実験に取り組む人、サークル活動やアルバイトに力を注ぐ人。さらには再び知識・技術習得と研究に取り組もうとする社会人、海外から学びに来た留学生など多くの学生がいます。一方、なかには悩みや不安、疑念など何らかの理由で休みがちになったり、大学へ行くことが困難になってしまう人たちも少なからずいます。

義務教育とは違って、あらゆる場面で主体性や自らの判断が求められる大学で、学生生活上、困難を抱える学生は見落とされがちです。ではそのような大学生に対して周りにはどのように関わればよいのでしょうか。復学を前提にサポートすることが本人にとって最善策なののでしょうか。研究では小・中学生における「不登校」とやや異なる「大学生の不登校」に焦点を当て、現在行われている支援状況の調査や当事者への聞き取りなどを通じ、周りの関わり方や支援の在り方などを模索しています。

地域研究科では広範囲にわたる分野を専門とする先生方をはじめ、同世代の人のみならず様々な経歴を持つ社会人の方々や海外から学びに来た留学生など多様な人々が在籍しています。分け隔たりない環境の中で、お力と知恵を拝借しつつ研究活動に奮闘しております。

進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2017年度卒業生では全就職決定者108名のうち32名(29.6%))、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業への就職は多いものの、卸業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していること、が挙げられます(詳しくは次ページ参照)。

このように卒業生たちが様々な業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的にとらえることのできる人財を育てる)の一つの成果であるともいえます。

就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみて高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。近年は全国的に就職状況が好転しており、本学部のそれも非常に良好な状況が続いています。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2017年度では97.3%となっています(2013年度から2017年度の過去5年間を平均すると卒業時の就職内定率は平均で96.4%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意をもって就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、その他にも、学部としても学生の活動をサポートするために指導教員の他に4名の就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速且つきめ細やかに対応している、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施している(就職活動を経験した学生の生の声がきける等)、数年に一度、学生が就職した主な企業に教員が直接出向き、企業担当者から学生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討している等の取り組みがあります。さらに卒業後のサポートをしています(就職後のトラブル、転職や仕事上の悩み等の相談や情報提供をしている)。

今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人財を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

OB・OGの声

2013年度卒業 山本 真理子さん



南知多町役場

私は自治政策コースで行政法のゼミに所属していました。

将来は、地元の発展に貢献したいと考えていました。そのため、さまざまな分野での知識と視点が必要だと思い、岐阜大学地域科学部に進学しました。

在学中は、さまざまな分野で交友関係が広がりました。また、2年生の基礎ゼミでは、楽しい！自分の強みにできるかも！と、思える「行政法」に出会い、充実した学生生活でした。

現在は地元の南知多町役場で勤めています。地域の振興に関わることを担当し、5年目になりました。地域科学部で学んだことをどう活かせるのか考えながら、毎日楽しく働かせていただいています。

学部の友人や先輩、先生との繋がりは卒業後も絶えません。特にゼミの先生や友人とは、一緒に勉強することもあります。

地域科学部で学ぼうとする皆さんには、今まで気づけなかった「学ぶ楽しさ」を味わってほしいです。そして自分の興味を持てること、強みにできることを見つけ、将来なりたい自分を発見してもらえたらと思います。

学部進路

2017年度卒業生進路状況

(2018年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(32)

国土交通省 犬山市
法務省 大垣市
防衛省(2) 可児市
愛知県警察(2) 関市
愛知県(3) 川辺町
岐阜県(9) 岐南町
福井県 安八町
岐阜市(2) 養老町
名古屋市 弥富市
一宮市

建設・製造業(18)

(株)新和建設 アンデン(株)
(株)渡辺建設 オムロン(株)
ミサワホーム(株) 岐阜愛知電機(株)
ダイナパック(株) (株)小糸製作所
(株)SPF 小島プレス工業(株)
(株)オンダ製作所(2) (株)ニートレックス
(株)クリモト 大福製紙(株)
(株)イマオコーポレーション 日本耐酸壘工業(株)
(株)パロマ

運輸・情報通信業(13)

(株)セイノー情報サービス(2) 富士ソフト(株)
(株)テクノア シーシーエヌ(株)
アビームシステムズ(株) 岐阜乗合自動車(株)
タック(株) 三重交通(株)
ミクスネットワーク(株)MICS 日本通運(株)
中部テレコミュニケーション(株) 名港海運(株)

金融・保険業(14)

(株)十六銀行(2) 香川県農業共済組合連合会
(株)大垣共立銀行(3) 損保ジャパン日本興亜
あいち中央農業協同組合 第一生命保険(株)
蒲郡信用金庫
岐阜県信用保証協会
岐阜商工信用組合
三菱東京UFJ銀行
あいおいニッセイ同和損害保険(株)

サービス業(12)

(株)シイエム・シイ
河合泰宏税理士事務所
大進精工(株)
(株)名南経営コンサルティング
(株)トーカイ(4)
日本旅行
名阪近鉄旅行(株)
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
マスターピース・グループ(株)

不動産・物品賃貸業(1)

三井不動産ビルマネジメント(株)

複合サービス業(5)

愛知西農業協同組合
岐阜県農業協同組合中央会
西三河農業協同組合
日本郵便(株)
美濃酪農農業協同組合

卸・小売業(7)

(株)ズケン
(株)大光
(株)ナイスワーク
(株)ファミリーカーショップ
(株)久米商店
スーパーサンシ(株)
(株)三交クリエイティブ・ライフ

医療・福祉・教育業(6)

JA岐阜厚生連
医療法人社団瑞鳳会松岡整形外科
独立行政法人 国立病院機構 東海北陸グループ
社会福祉法人恩賜財団 愛知県同胞援護会
(株)イーオン
(株)西濃自動車学校

進学(5)

岐阜大学地域科学研究科(3)
一橋大学大学院
名古屋大学法科大学院

卒業生数

119名

就職希望者数

111名

就職決定者数

108名

進学者数

5名

進路未定者数

4名

その他

2名

就職率

(就職決定者数÷就職希望者数)

97.30%

OB・OGの声

2016年度卒業 村田 真二郎さん



岐阜県(現所属:飛騨保健所)

学部では合掌研究室に所属し、環境心理学を学びました。この研究室は普段の生活で何となく疑問に思っていることをそのまま研究できるため、集まる学生の興味・関心はさまざまです。同期の間はSNSについて、方向感覚についてなど非常にユニークな研究をしていて、毎回のゼミは仮説設定や考察の話で盛り上がりました。私は人間が持っている攻撃性が自動車運転時にどのように発現するのか、攻撃性の類型や変化量といった視点から調査を行い、卒業研究としてまとめました。実験や調査、統計分析は苦労しましたが、仲間でお互いに助け合いながら研究を進めたことは、いい思い出となっています。

現在は飛騨地域を担当する保健所で保健師と共に、精神障がい者の支援をしています。業務を担当して2年目であり、まだまだ学ぶことは多いですが、この職場でしか経験できないような出来事が多く、楽しく業務に当たっています。業務内容は多岐にわたっていて、中には困難な事例もありますが、そのような事例に対応する時は、大学で身に付けた幅広い視野や考える姿勢が役に立っていると感じています。

研究科進路

2017年度修了生進路状況

(2018年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

建設・製造業(3) 昭和コンクリート工業(株) 一般社団法人 日本血液製剤機構 (株)オシキリ	運輸・情報通信業(1) 濃飛倉庫運輸(株)	卸・小売業(1) 輔栄堂古美術	サービス業(1) エルシード(株)	医療・福祉・教育業(2) (株)羽島企画トータルケア Mama's 岐阜県社会福祉協議会	進学(1) 明治大学商学研究所
---	---------------------------------	---------------------------	-----------------------------	---	---------------------------

修了生数 18名	就職希望者数 9名	就職決定者数 8名	進学者数 1名	進路未定者数 1名	その他 ※1 8名	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数) 88.89%
--------------------	---------------------	---------------------	-------------------	---------------------	---------------------	---

※1 社会人修了生を含む

OB・OGの声

2016年度修了 河村 あゆみさん



岐阜大学 サポートルーム

私は美容師として20年働いてきました。そんな私が、障害のある若者たちに出会ったことで、自分の好きなおしゃれが自由にできない人もいたことを知りました。だれでもおしゃれを楽しんでほしいと思った私は、さまざまな年代の障害のある人たちを対象に、ヘアメイク教室を企画しました。新しい自分に出会い少しずつ変化する彼ら・彼女らの姿から、ヘアメイクの学びをきっかけに人間関係や生活にも変化が表れ、おしゃれやヘアメイクを行う意味と大切さを再度確認しました。そして、私自身ももっと学ぶ必要性を感じ、大学院で学びたいと思いました。

大学院では土岐研究室に所属しました。修士論文では「おしゃれやヘアメイクが障害のある若者たちの自立にどのような影響があるか」をテーマにとりあげました。一緒に学ぶ仲間にも恵まれ、発達心理学を中心とした文献を読み深めるとともに、大学の中だけではなく障害のある人や保護者さんとも直接かかわり余暇活動の支援にも携わりました。実践と講義で学んだことで特別支援学校高等部卒業後の若者たちの過ごし方や働き方などについても視野を広げることができたと思います。学部の学生さんと共同で研究を行う機会や土岐先生と共著で障害のある青年たちの自立について本を執筆する機会もいただきました。

修士課程修了後は、岐阜大学のサポートルーム(障害学生支援室)で相談支援を行っています。これまでに学んだことを生かしながらすべての学生さんが豊かな学生生活を送れるようにサポートしていきたいと思っています。

OB・OGの声

2014年度修了 張 訳丹さん



一般社団法人 ギフトピア

私は中国の出身で、張訳丹と申します。笠井ゼミの唯一の留学生でしたが、アットホームなゼミの雰囲気から寂しさや言葉の壁を感じず勉学に励むことが出来ました。ワークライフバランスの取れたゼミだったので、勉強以外にも国内外の学会への参加や社会人交流、ゼミ生との様々なパーティーなど充実した学生生活を送りました。以前は修士論文は頑張れば一人で書けるものだと思いましたが、実際はテーマ設定からデータ分析まで先生との二人三脚による製作が重要なプロセスでありました。先生のサポートと協力者の力をお借りして、多言語の相関関係を示すことが出来たことは私の自信になっています。お陰様で卒業式では謝辞の大役を担うことが出来たことは一生の思い出です。修士課程修了後、主人と一般社団法人を設立し、語学レッスンから地域資源を活用したインバウンドサービスまで外国人だから出来る事業を展開しています。先日は、岐阜県の「岐阜県で活躍する女性」として選出頂きました。いつも黒板の前で教鞭を振るう先生の姿を思い出しながら、私も同じようになれるよう事業に励んでいます。在学の二年間、社会言語科学から森林生態学まで幅広い分野の授業を選択しましたが、今振り返ると、関係がない分野でも社会人生活のどこかに役立つことが多々あります。全てが余す事なく人生の一部になっている感覚、これが一生の財産というものかもしれません。在学中の皆さん、ぜひ学生でしか体験できない楽しさを存分に味わってくださいね。

地域科学部の活動と成果

地域資料・情報センター

URL <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>

当センターでは、年1回のニュースレター・教育学部郷土博物館所蔵資料目録の発行の他、ウェブサイトで、岐阜県のトピックスや、寄贈頂いた書籍等の紹介、河口堰資料の公開を行っています。

平成の大合併前の旧自治体の自治体史を収集することができ、当時100近くあった市町村のほぼ95%程度を網羅することができました。これには自治体史のみならず、古くは明治時代のもの、ガリ版刷りのもの等、貴重な物もあります。一方で、現代資料として、継続的に続く作業ではありますが、各自治体の各種計画の電子保存も行いました。各方面からの寄贈資料・以前からの長良川河口堰関連の裁判資料等の整理を進めています。中には当センターにしかない資料もあり、引き続き整理公開を進めています。



旧自治体別に整理された岐阜県自治体史

岐阜大学公開講座（地域科学部企画）



地域科学部では高校生以上の市民一般を対象に、公開講座を毎年開催しています。2017年度は「地域科学部の授業」をテーマに掲げ、3日間でのべ190名にご参加いただき、異なる年齢層の受講者が共に学び刺激を受け合う姿が見られました。

2018年度も引き続き地域科学部の授業を体験できる公開講座を開催します。人類学、フランス語、ドイツ語、理論科学、物性物理学と、幅広い分野の講義を予定しています。

高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象になることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、岐阜経済大学、岐阜市立女子短期大学と相互に連携・協力して「街なかオープンカレッジ」を岐阜県各地で開催してきました。

2017年は8月に岐阜市のメディアコスモス、10月に恵那市岩村で行いました。実際に地域で活躍するNPO法人の職員や建築家などの講義を受け、フィールドワークやワークショップを行いました。まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。

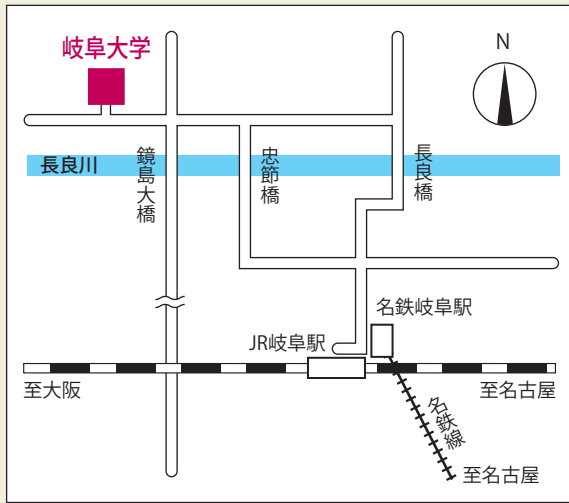


教員一覧

(2018年6月1日現在)

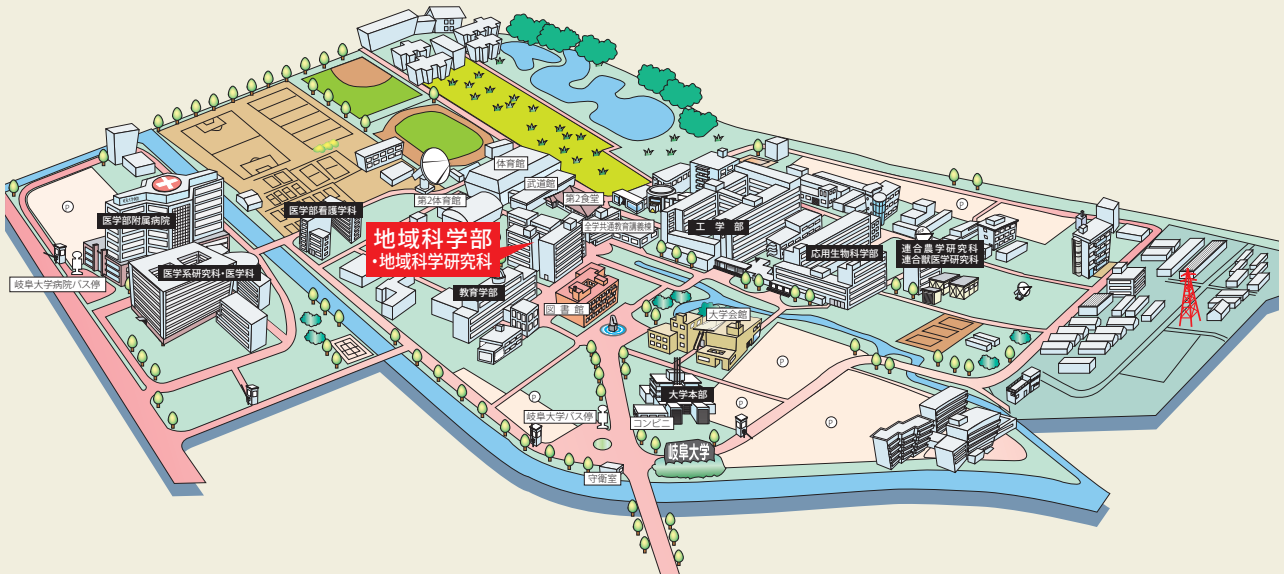
学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード
地域政策	地域政策	教授	西村 貢(財政学)	地域開発と財政構造、財政思想、社会システム
			宮野 雄一(地域経済学)	国土計画、地域開発、社会資本、水資源、環境経済学
			富樫 幸一(経済地理学)	人文地理学、地域経済の分析、産業調査、まちづくり
			三井 栄(計量経済学)	計量経済分析、時系列分析、数理ファイナンス、経済シミュレーション
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR
			三谷 晋(行政学)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟
			山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性
			立石 直子(民法学)	家族生活と法、子どもの人権、ジェンダー法、法と心理の協働
			林 琢也(経済地理学)	農村観光、メディアと観光、地域リーダー、合意形成、知的財産権
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化
	助教	宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域	
	地域環境	教授	肥後 睦輝(森林生態学)	環境保全、里山、湿地、多様性
			和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価
		准教授	向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析
			橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS
			助教	中塚 温(統計物理学)
地域文化			地域文化	教授
	林 正子(日本近代文学)	日本近現代小説・文明評論、ドイツ思想文化受容、日本近代女性文学、風土と文学		
	松尾 幸忠(中国古典文学)	中国文化論、詩跡(歌枕)研究		
	稲生 勝(科学哲学)	環境問題、科学・技術と社会の関係、自然観、ヘーゲル、歴史における自然科学		
	内海 智仁(アイルランド文学)	小説論、アイルランド、モダニズム		
	内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語		
	洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会		
	橋本永貢子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能		
	牧 秀樹(言語学)	生成文法		
	准教授	格蘭・ジル(フランス語)		
		フランクシュタイン、アレクサンドラ(ドイツ語)	ドイツ語	
		笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論	
		助教	柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史
	地域構造	教授	土岐 邦彦(発達心理学)	人間発達、障害、コミュニケーション、教育、福祉、ケーススタディ
			近藤 眞庸(健康教育論)	健康教育、人間の性と生と死の教育、いのちと人権の教育
			高木 和美(社会福祉学)	生活問題、社会福祉、地域福祉論、社会保障、医療政策
			ラッセル、ジョン・ゴードン(文化人類学)	内なる多様性、創造、想像、鏡としての他者、ボーダレス社会、異文化交流
			野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現
			伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力
		准教授	南出 吉祥(生活指導論)	教育-福祉-労働、若者の自立、居場所、支援、貧困
講師		加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会	
助教		山口未花子(人類学)	人と動物、先住民研究、狩猟採集社会、被災地の生業と祭、世界観	

Information



ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問合せ先

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/>